

そして公務員たる技術者はすべからく「II型技術者」であれとハッパをかけた。

公共技術者が自己の専門分野の知識を深め、その進歩に遅れないように日々研鑽を積むのは当然のことであるが、II型技術者はコンピューター、生態学、気象、外国語などにチャレンジし、その知識を取得し自己の業務に反映させよというのである。

他分野との連携については、他分野の技術基準やマニュアルに書かれている表面的知識は理解できても、長期の経験と失敗の積み重ねの末に取得できる本質的な部分は実感できないので、他分野の理解には困難が伴う。

逆に他分野の技術者が、自分の分野のことを本当に理解してくれているのか、心配になることも多いのである。

試みに、自分の事業を他分野の技術者に説明し、彼又は彼らがどういう感想を持つのか、虚心坦懐に尋ねてみる事である。同じ技術者なのに、予想しない答えが返ってきて驚くことになるかも知れない。

ここは技術者同士、胸襟を開いて疑問をおつけあい、率直に議論しあうことである。

工学を学んだ技術者であれば、力学、材料など基本の土台は同じだから、それぞれの分野の特徴を詳しく聞けば、かなりの程度まで共通の理解に達するのである。

一部の地方自治体では、縦割りの弊害をなくすとして、数少ない技術者をあちこちの部署を回り歩く人事を行っているが、これは技術の専門性を考えない軽率な政策であろう。

II型人間ではないが、2つくらいの分野を経験するのは有益でも、いくつものとなると逆に自信を持って対応できる地に足の着いた部分が失われる。

専門というのは単なる分担ではない。

自分の能力と人生をかけ愛情を注ぎこむ対象なのであり、そうコロコロ変えられるものではない。

以上、長々と申し上げましたが、終わりに結論として、“公共技術者の技術力の向上とは、広く総合的な見方をする能力を養い、他分野の技術との連携を深め、現在の人々の発言のみにとらわれず、将来の子孫の一票や昔の先人の死者の一票をも尊重する精神の向上に努めることである。”

と締めくくらせて頂きます。

詰 碁

黒 先

出題 土井 誠 八段

〔ヒント〕
「打ち欠き」の手筋の基本型です。

〔あなたの棋力は？〕
5分……………初段
(解答は80頁)

詰 将 棋

出題 石田 和雄 九段

〔ヒント〕
角と銀を手順にさばいて行く。

〔あなたの棋力は？〕
5分……………初段
10分……………一級
(解答は80頁)